施設一体型小中連携教育校における学校支援

～地域協育ネット「厚陽学校応援団」の取組～　【山陽小野田市　厚陽中学校区】

地域の概要

厚陽中学校区は、山陽小野田市の南西部に位置し、東は厚狭川、南は瀬戸内海周防灘に面しています。厚狭毛利氏の開作事業によって広く農業が行われています。平成 24 年度から、厚陽小学校と厚陽中学校が施設一体型小中連携教育校となりました。

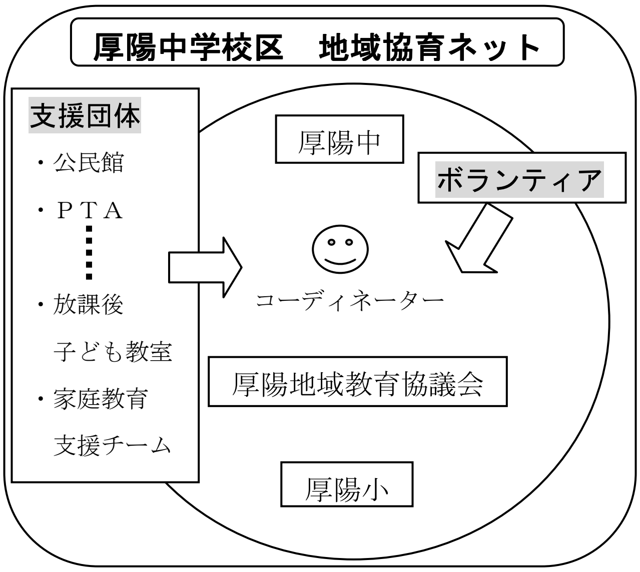
人　口		2,233 人
世帯数		995 世帯
対象校及び児童生徒数	厚陽中学校	51 人
	厚陽小学校	103 人

組織の内容

厚陽中学校区では平成 20 年度から、厚陽学校支援地域本部「厚陽学校応援団」を設置し、早くから学校支援活動に取り組んでいます。地域教育協議会は、学校関係者をはじめ、ふるさとづくり協議会や自治会協議会、地区社会福祉協議会、母子保健推進協議会、食生活改善推進協議会等の地域団体関係者、公民館、ＰＴＡや学校評議員で構成されています。

平成 24 年度からは施設一体型小中連携教育校となり、活動においては、コーディネーターと環境整備班、クラブ活動支援班、学習活動支援班、学校安全支援班の各班長であるチーフとの間で、連絡調整がされています。

また、平成 20 年度から継続して取り組んでいる「厚陽あそび隊」（放課後子ども教室）や家庭教育支援チームによる「子育て講座」、厚陽保育園での教育支援活動等、15 年間の子どもの育ちや学びを地域ぐるみで支援する「地域協育ネット」の推進を図っています。



厚陽地域教育協議会の構成	学校関係者	6 人
	地域団体関係者等	10 人
	ＰＴＡ関係者	9 人
	学校評議員	2 人
コーディネーター数		1 人
登録ボランティア数		112 人

特色・重点的な取組

小中連携の取組として、「児童会と生徒会の合同企画による行事」を年に数回実施しています。１学期の「ふれあい集会」は小学１年から中学３年までの児童生徒が共に楽しむ異年齢交流の場となりました。秋には地域の方も参加される「ふれあい運動会」が、12 月には地域のためにできることをしようと児童生徒が話し合い、学校周辺の清掃活動を行うことが決められ、小・中合同による学校・地域の清掃活動「ふれあいクリーン作戦」を行いました。

小・中合同のボランティア活動

主な活動の紹介

施設一体型小中連携教育校となり２年目の今年も多くの活動が行われました。従来の学校支援活動である読み聞かせ、書写・家庭科・図工等の指導、校外学習引率支援、クラブ活動支援や備品等の営繕、図書整理や補修、登下校時の交通安全指導等、引き続き地域ぐるみで行っています。今年８月には「日本スカウトジャンボリー地域プログラム」に参加しました。国内外から集ったボーイスカウトの「浴衣の着付け」では女性部の皆さんにお世話になりました。また、地域合同での防災訓練では児童生徒が参加し、はしご車体験や食生活改善推進協議会の指導の下、炊き出しの体験も行われました。放課後子ども教室の「厚陽あそび隊」では、校区にある神社に行ったり、カブトガニを飼育されている地域の専門家のお話を聞いたりと地域学習を進めています。この他、家庭教育支援チームによる「子育て講座」、厚陽保育園への行事支援、公民館での中学生と地域の協働による花づくりなど、様々な活動を通して地域ぐるみで子どもたちを育んでいます。

炊き出し体験（地区防災訓練）

中学生のお兄さんと本読み

お話の会

カブトガニ観察(厚陽あそび隊)

浴衣で記念撮影(ジャンボリー)

地域の方への感謝の会

成果と課題

施設一体型校舎の良さとして、日常的に異年齢の児童生徒が交流できる点があげられます。運動会や文化祭といった行事はもちろんのこと、日頃の生活の中でも自然と縦のつながりが生まれています。これにより、小学生は中学生の姿にあこがれを抱き、中学生には思いやりの心が育まれます。

「地域連携室」や「ふれあいルーム」は地域の方との交流スペースとして活用されています。子どもたちとの交流活動の他、打合せの場としても使われています。給食を食べながら行ったランチ・ミーティングは地域の方に好評でした。

課題は「どの活動、どの場面で支援をしていただくか」といった支援活動の精選です。そのためにも、今一度、活動のねらいを学校、コーディネーター、地域で再確認し、活動を進める必要があります。

ふれあいルーム

今後の取組

公民館や地域団体との連携を進めることで地域の方と児童生徒とのかかわりを密にしていきます。

地域連携施設の特長を生かし、多様な人とのふれあいの促進により、児童生徒の社会性を育むための教育環境の更なる構築をめざします。